

## 『タティングレース』

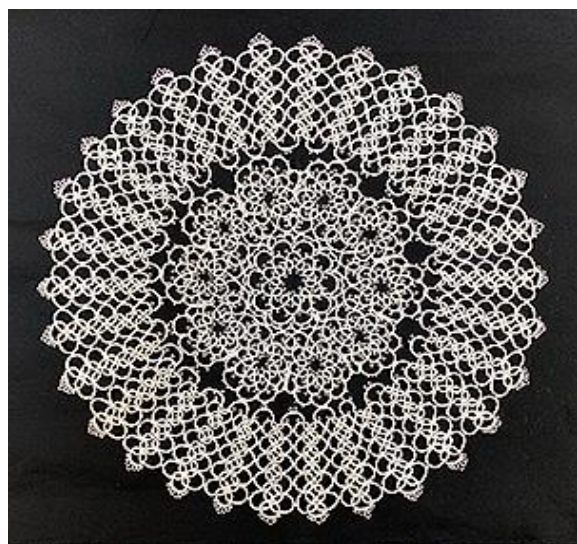
日本アートクラフト協会理事タティングレース講師 高木桂一 先生

### 糸と糸を結ぶこと、それは心と心を結ぶこと

タティングレースとは、糸を結び、その結び目を連続させて作っていく「結び」の手芸です。ヴィクトリア王朝の王侯貴族が自らの為に作る高貴な手芸をルーツとし、その魅力は何といてもアクセサリから立体的な飾りまで、作品の多彩さにあります。当センターにおいても人気講座の一つとなっています。

「糸と糸を結ぶことは、人の心と心を結ぶこと」それを座右の銘とされる、講師の高木先生をご紹介します。

高木先生とタティングレースとの出会いは、編み物講師の奥様にその存在を聞いてから。元々、多種の手芸を手掛けていらした先生ですが、結ぶ手芸であるタティングレースに心ひかれ、技法を追求されました。国内外の高名な指導者の元に足を運んでは技術や指導方法を習得。やがて国際・国内講習等において、いくつもの賞を受賞。同時にアンティークレースの研究、復元に力を注がれていました。



折しも世の中はタティングレースに関心が集まり始めた頃。ただ、その名を称して全くの別物も横行していました。心を痛めた先生は「ならば自分が広めよう！」と、決意。ブログから始まり、イベントや展示会を精力的に開催して、作品を次々と世に出されました。

先生の作品は繊細かつ華やか。また、あるものは立体でどの角度からも美しい。そして日本人としての誇りをもったの和テイスト。趣向をこらした作品は多くの関心を集め、講師としてのオファーも次々と舞い込んで今に至るとのこと。

ちなみに中日文化センターは、当センターを含め5つのセンターにご出講いただいております。

先生が講座において一番大切にされていることは、「楽しむこと」だそうです。楽しむためには、正しい手法と技術を身に付ける。それには基本からきちんと学ぶこと。段階を踏んでステップアップしていくことが、いちばん技術を高めるそう。

作品を矢継ぎ早に形にするのではなく、「作る過程と指使い」をきちんと習得して頂くことが、やがては「楽しむこと」に繋がるのです。

同時に、生徒さんの利き手や性別、年齢、個性に合わせての指導方法も心掛けていらっしゃいます。結果として、同じ教室内でも個々に違った指導になります。それは、それぞれ自分に合った過程で正しい技法を身に付けて頂きたいという、先生のこだわりでもあります。

沢山の人が、タティングレースを楽しむことを通じて、家族や友人との間により良い人間関係を作る1つのきっかけになれば、と願いと心を込めて……  
高木先生の糸を結ぶ理由がここにあります。